



JDS

The Project for Human Resource Development Scholarship

人材育成奨学計画



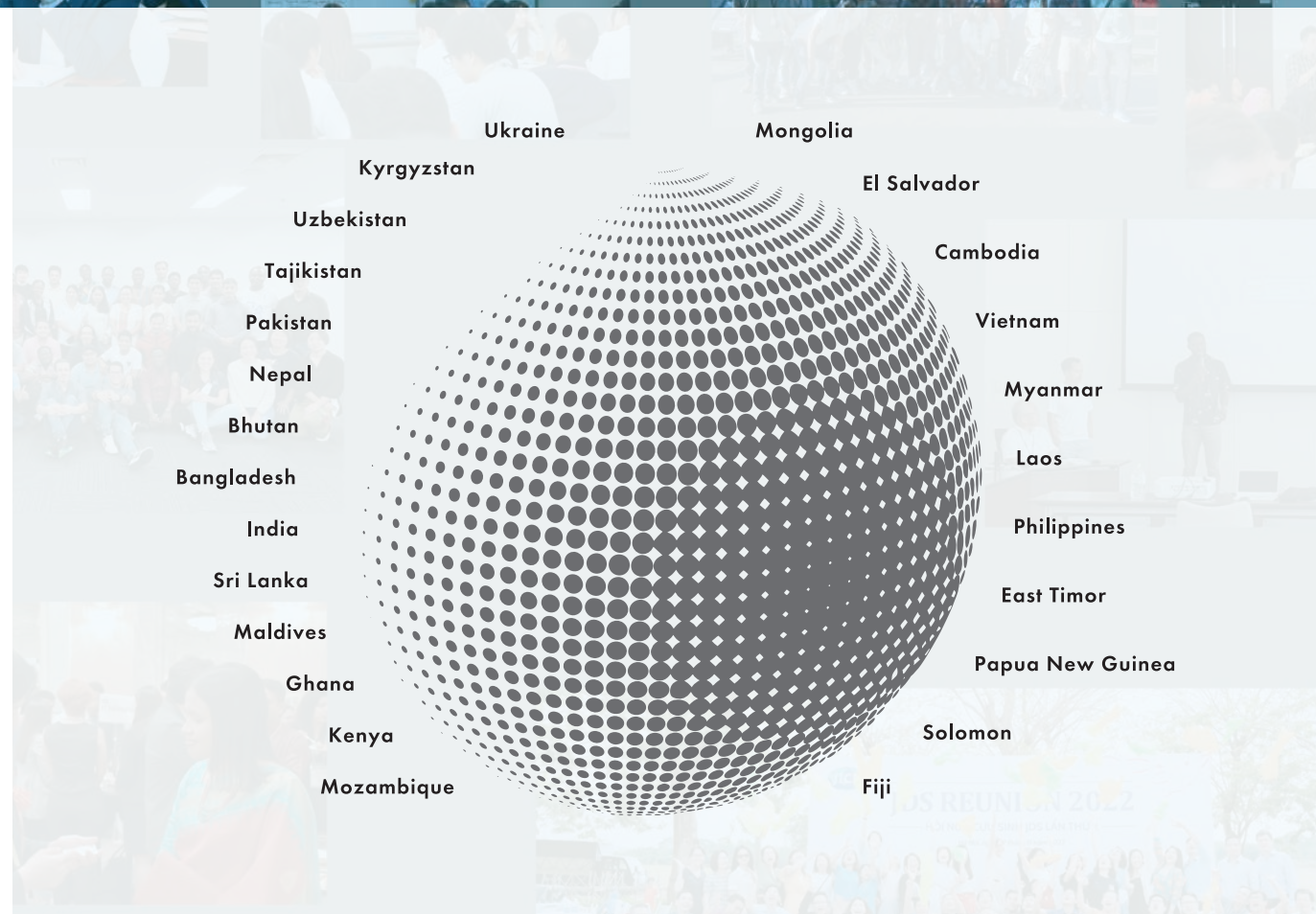
The Project for Human Resource
Development Scholarship

人材育成奨学計画



JDS とは

「人材育成奨学計画」(The Project for Human Resource Development Scholarship: 通称JDS)とは、無償資金協力による開発途上国の若手行政官等を対象とした留学生受業です。JDSは1999年度に「留学生支援無償事業」として創設されて以来、これまで6,000名を超える留学生に学ぶ機会を提供しています。



JDS の目的

日本での
学びを
各国の
課題解決へ

■ 日本の大学院に留学する機会を提供し、帰国後は、社会・経済開発計画の立案・実施において、留学中に得た専門知識を活かして、将来、政府中枢でリーダーシップを発揮し、活躍すること

二国間
関係の
強化

■ 日本で政府関係者等のネットワークを強化し、信頼できるパートナーとして、相手国と日本との二国間関係が中長期的に維持・強化されること

JDS 変遷

「留学生支援無償事業」 として創設	1999
留学生初来日	2000
名称を 「人材育成支援無償(JDS)」に変更	2007
初のJDS帰国生同窓会設立 (バングラデシュ)	2010
アフリカ地域から初来日 (ガーナ)	2012
名称を 「人材育成奨学計画(JDS)」に変更	2015
博士課程の受入開始 集合研修の導入	2017
JICA開発大学院連携開始	2018
中南米地域から初来日 (エルサルバドル)	2021
欧州地域から初来日 (ウクライナ)	2024



2006
留学生来日
1,000人突破

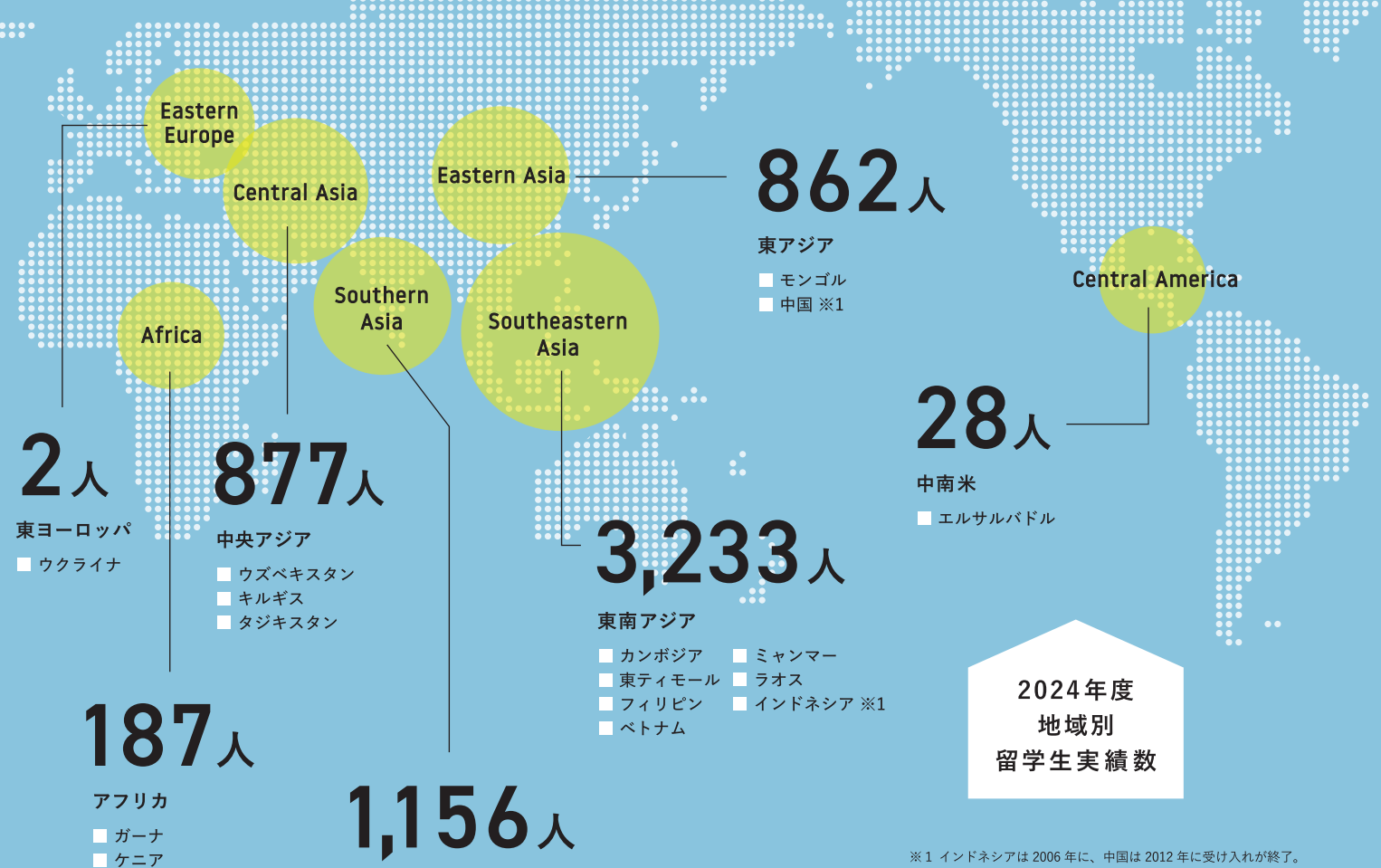
2012
留学生(女性)来日
1,000人突破

2014
留学生来日
3,000人突破

2020
留学生(女性)来日
2,000人突破
留学生来日
5,000人突破

2023
留学生来日
6,000人突破

JDSでは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進のため、女性行政官の参加や能力向上を促進する取り組みを行っています。



JDS 実績

受入実績大学

53大学



数字で見る実績

対象分野ごとの 滞在中留学生数

(2024年10月時点)

JDS による協力が有効と考えられる各国の優先分野・開発課題に対し、4期分の計画を策定し継続的に留学生を迎えます。

開発課題の 解決に貢献する リーダーの育成

高い学位取得率

平均 **98.6%**

JDS 事業全体の学位取得率(修士)は対象国別にみても 92% ～ 100% の範囲にあり、平均98.6%と高い取得率となっています。

対象分野

経済 36.6%

308 名

法・行政 33.8%

284 名

保健 3.2%

27 名

工学 16.8%

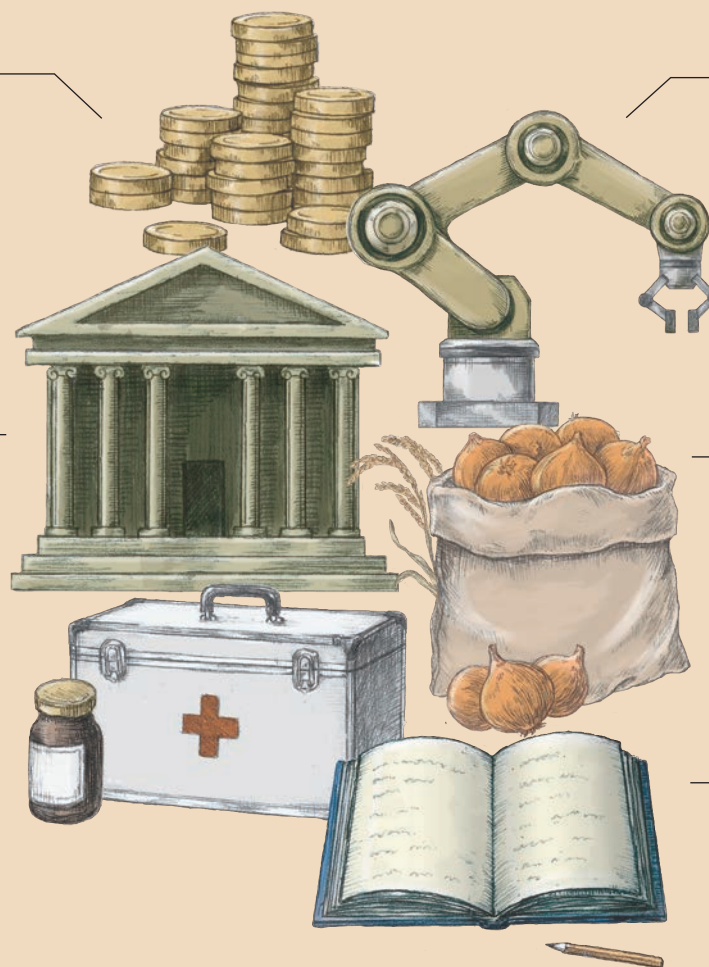
141 名

農業 7.1%

60 名

教育 2.5%

21 名



JDS 事業の効果

自分に対する 自信

自国の開発課題への意識

交渉力

分析力

問題解決能力

指導力

自分の見解を明確に
伝える能力

JDS 帰国生に対する質問票調査の結果、以下の効果について確認できています。

能力の変化

JDSに参加することで、「自国の開発課題への意識」、「交渉力」、「分析力」、「問題解決能力」、「自分に対する自信」、「指導力」、「自分の見解を明確に伝える能力」について、留学後変化があったと多くの帰国生が回答しており、その中でも「自分に対する自信」が最も回答数が多い。

親日感情の高まり

JDS事業を通じて、「日本人・日本に対する信頼」、「日本の社会・文化への理解」が深化している。また、帰国後、日本との関係を促進するための活動に関わっている帰国生も確認できている。

女性行政官の活躍に貢献

平均 **40.9%**

モンゴル 女性 63% 男性 37%

スリランカ 女性 58% 男性 42%

対象国における女性行政官の割合は、平均40.9%。対象国の約半数において留学生に占める女性の割合が上昇しており、女性行政官の人材育成への貢献度合いを高めています。

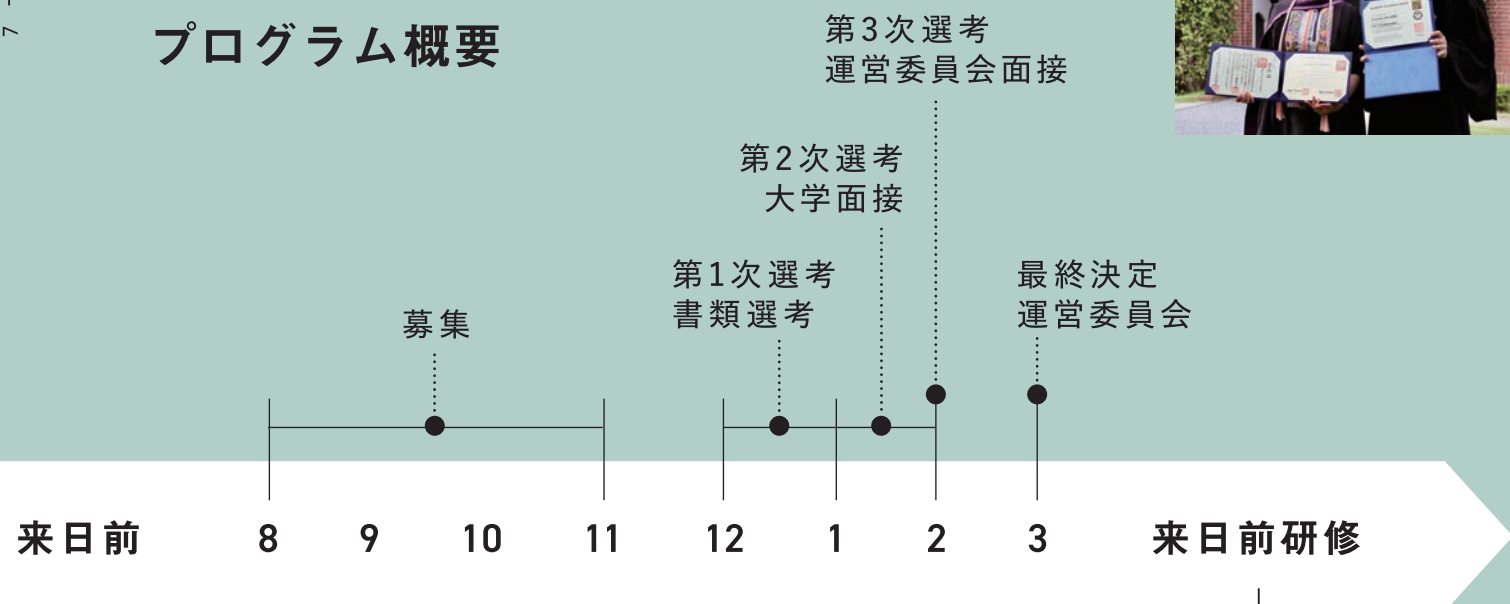
リーダー育成に寄与

バングラデシュ **96.3%**

キルギス **79.6%**

JDS 帰国生の中には、帰国後に昇進し、開発課題の解決に向けて活躍している人が多くいます。バングラデシュでは96.3%、キルギスでは79.6%が役職に就いており、リーダー育成に寄与しています。

プログラム概要



※スケジュールは国・時期によって前後することがあります

留学前に日本を学ぶ

JDS留学生としての意識醸成とともに、日本語・日本文化への理解深化を目的とした研修を提供し、留学生生活の円滑なスタートを支援しています。

1 日本語学習

日本での生活に必要な日本語の基礎を習得

2 日本の開発協力

日本の開発経験や各国に対する日本の協力量針や実施中プロジェクトについて説明

3 日本文化理解

日本の文化や円滑に日本での生活を始められるよう、社会のルールやマナー、生活習慣などの情報を提供



日本での学びとネットワークを 自国の開発課題に活用

1 留学での研究成果の共有

帰国報告会を開催し、研究成果についてJDS留学生の所属機関やJDS帰国生等に向けて発表

2 フォローアップセミナー

JDS受入大学の教授による特別講義、JDS帰国生同士のネットワーク構築機会を提供

3 留学生同窓会

各国での同窓会組織の設立により、日本留学経験者同士のネットワークが強化・維持拡大



来日中

留学生生活を豊かにする充実のプログラム

大学院での学業に加え、将来の二国間関係強化に繋がるネットワーク構築の機会、キャリアアップを見据えたリーダーシップ能力強化等、様々なプログラムを提供しています。

1 行政官交流会

JDS留学生と日本の行政官との意見交換及び人的ネットワーク構築の機会提供

2 集合研修

日本の開発経験・文化・社会やリーダーシップ、ジェンダー平等化などの研修機会を提供

3 知的ネットワーク強化

国内外の学会での発表やセミナーへの参加などを通じた、アカデミックな交流機会の提供

4 大学提供の特別プログラム

JDS受入大学による各国ニーズに即した個別プログラムや充実した指導・受入体制の提供

5 JICA関係者との交流会

JICA職員に加え、JDSとは異なるJICA留学プログラムで来日している留学生との交流を通じ、各国の開発課題や具体的な事例を学ぶ機会を提供



9

Interviews



Fam Khanh Hieu氏

SOCIAL REPUBLIC OF VIET NAM

留 学 先：名古屋大学大学院 法学研究科

留 学 期 間：2002～2004年

所属先/役職：（留学前）外務省 国際法・条約局 / 専門家
（現 在）駐日ベトナム大使館 / 大使

留学経験は政策立案や外交戦略のアプローチを形成する上で貴重な機会となりました

留学での学び

国際法と外交における深い基盤を築き、グローバルな法体系と実践的応用に対する理解を深めてくれました。この経験は、政策立案や外交戦略のアプローチを形成する貴重な機会となり、国際関係の複雑さに対応し、意義のあるグローバルなパートナーシップを築くためのスキルを身につけることができました。

帰国後の仕事

相互利益のある主要分野に焦点を当て、日越間の戦略的パートナーシップをさらに深めていきたいと考えています。まず、日本企業によるベトナムへの投資機会を促進することで、経済、貿易、投資分野の協力を強化します。次に、教育と研究における協力関係の強化を目指します。そして、もう一つの重要な目標は文化外交を推進し、二国間の交流をさらに活発化させることです。



The Project for Human Resource Development Scholarshi

JDS

留学生の躍進



ディープシカ ムナカミ 氏

NEPAL

留 学 先：九州大学大学院 法学府

留 学 期 間：2019～2021年

所属先/役職：（留学前）法・司法・議会省 / 課長補佐
（現 在）検事総長室 / 局長(国立司法アカデミー / 教員)

異なる地域から集まった仲間たちと深い異文化交流を築くことができました

留学での学び

個人的にも学問的にも、大きな成長を遂げる貴重な期間となりました。文化相対主義の理解、変化への適応力、現代の社会文化的パラダイムを深く洞察する能力を身につけることができました。特に貴重だったのは、異なる地域から集まった仲間たちと深い異文化交流を築けたことです。

帰国後の仕事

ネパールにおける政策決定に重要な影響を持つ局長のポストを目指す厳しい試験に合格しました。また、国立司法アカデミーの教員にも任命され、様々な省庁の司法関係者を対象とした能力向上プログラムの企画・運営に携わっています。これらのプログラムは、ネパールと日本の関係をさらに強化する貴重な機会にもなっています。





ウセノヴァ ナズグル 氏

KYRGYZ REPUBLIC

留 学 先：立命館大学大学院 経済学研究科

留 学 期 間：2010～2012年

所属先/役職：（留学前）大統領府 / 専門家
（現 在）エネルギー省 / 副大臣

日本での経験のおかげで、帰国後のキャリアが大きく変わりました

留学での学び

研究テーマは、エネルギー資源管理の課題に焦点を当てており、この研究を実践に活用する方法も学びました。また、マネジメントに関する講義では、論理的な解決策を見つけるための手法が取り上げられており、大変充実した学びのプログラムが提供されていました。

帰国後の仕事

私はエネルギー省副大臣として働いています。日本から帰国後、私のキャリアは大きく変わり始めました。日本での経験のおかげで、これらの前向きな変化が得られたと思っています。大学での学びは、意思決定のアプローチを再考する機会を与えてくれており、研究の成果は、今でも私が判断を下す際に役立っています。



JDS

留学生の躍進

JDS留学生は留学中の経験や研究成果を活かし、政府における社会・経済開発上の課題を解決する中核人材として幅広く活躍しています。



ルハグワバヤル エンフアムガラン氏

MONGOLIA

留 学 先：国際大学 国際関係学研究科

留 学 期 間：2016～2018年

所属先/役職：（留学前）大蔵省財務・報告・会計局 / スペシャリスト
（現 在）経済開発省マクロ経済政策部 / 部長

日本で得た知識と経験を活かし、国の発展を支えていきたいです

留学での学び

人生を変える貴重な経験となり、多くの面で成長をもたらしてくれました。学問的には、世界最高水準の教育と最先端の研究施設を利用できる機会に恵まれました。職業的には、価値あるネットワーキングの場が提供され、様々な背景を持つ仲間との交流を通じて、グローバルな人脈を築くことができました。

帰国後の仕事

JICAと連携して、経済均衡モデルを開発するプロジェクトに取り組む機会を得ました。学びの中で得た経験は、このプロジェクトを成功裏に完了するうえで大いに役立ちました。このような貴重な知識と経験を持ち帰る機会を得られたことに感謝しています。今回得た貴重な知識と経験を活かし、国の発展を支え、さらなる進歩に貢献していきたいと強く思っています。



Interviews — 10